

■ 市長から市民のみなさんへ

市長 白井博文



■ 東日本被災地への支援

かねて中間報告しておりました「災害がれき」については、最近になって国から、既に支援を受け入れている全国数力所の自治体と被災地の更なる自助努力で何とか処理できそうだとし、全国自治体への支援要請は一応打ち切りたいとの通知が届きました。山口県が一般廃棄物の焼却灰の処理についてはセメント原料化（エコテック）方式をとっていること、本市自体にも一般廃棄物処分場に全く余裕がないことなどは、既に中間報告でご説明したとおりです。

「少しでも役に立てるよう、どうか被災地復興に支援の手を差し伸べてください。」悲痛な叫びにも似た多くの手紙をくださった市民のみなさん。でももっと多数の市民の声は、まず市民の安心・安全を守ってほしいという内容のものでした。支援の手を差し伸べることを求めたみなさんの崇高な心や、広く言えば「人類愛」は、また別の機会に参考にさせていただこうと思います。

今秋、二人の建築士を宮城県沿海部の「山元町」に長期派遣します。うち一人はベテランの一級建築士で、単なるお手伝いではなく、太平洋に沿って帯状に伸びる町の大半を津波で流失した山元町のまちづくりを、彼の高い志と、永年蓄えた豊富な知識経験でもって、必ずや町の復興のために貢献してくれるものと期待しています。もう一人も一級建築士ですが、ベテラン

の補佐役を期待しての派遣です。まだ独身ですので、東北のお嫁さんを連れて帰るかも知れませんが。（ちなみに二人の人件費は、全額、国から交付されます。）人事課では二人の派遣で職場に穴が空かないよう、早速、補充の手続きに取りかかっています。

■ 総合計画の見直しについて

本市発足後、市の目指すまちづくりを総合計画という形で策定しました。基本構想は例の「…活力ある住み良さ創造都市」です。期間は平成20年度から10年間で、平成24年度末をもって5年が経過します。当初の予定どおり、今、担当課では総合計画の折り返しの時期を迎え、見直しの作業に取り組んでいますが、その一つである「市民アンケート」の結果が集約されつつあり、参考までにアンケートに記載された「自由意見」を読ませてもらいました。無作為抽出の3,500人から1,183人が回答を送ってくれ、自由意見も462件提出されました。ご協力をいただいた市民のみなさん、本当にありがとうございました。今のところ一覽したばかりですが、今後の総合計画にできるだけ活かせるよう、職員共々、努力してまいります。

対話の日

9月27日(木) 19:00 ~
市民館